

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	喜多見こどもの家
施設所在地	世田谷区喜多見3-14-6
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音(さまざまな音に触れて楽しむ)

<テーマの設定理由> ※①②両方について記載

①テーマの設定に活かした園の環境や強み
2歳児クラスは「リズム体操や音楽」に合わせて身体を動かすことが好きな子ども達が多く、色々な音に触れて楽しめるように、日常で聞いた音を自分の感音(言葉)として表現しようとしている。遊びや生活の中で触れる身近な音に注目して、子どもたちの表現を更に豊かにすることを目的とした。「音」をテーマとした。

②設定したテーマに子供の興味関心があると判断した理由

リズムや曲に合わせて身体を沢山動かして遊ぶことが好きでいつも繰り返し楽しんでいる姿があるため。

2. 活動スケジュール

- ・2歳児8名参加
- ・9月～2月まで月3回
- ・月に複数回の実施を計画し、計画に入れていない日もこどもの様子によっては活動していく。月に3回活動し、午前の活動や午後に活動していく。
- ・初めは3種類の楽器のみ準備し触る。
- ・3種類から6種類とだんだん楽器を増やしていく。
- ・クリスマス会で発表

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・リズムスタンドの楽器(タンバリン・カスタネット・鈴・ウッドブロック・ダブルホーン等)・スピーカー・iPad
- ・1つ1つの楽器の説明をしながら、1つずつ子どもたちの前に並べ、好きな楽器を自由に選べる環境を設定した。

4. 探究活動の実践

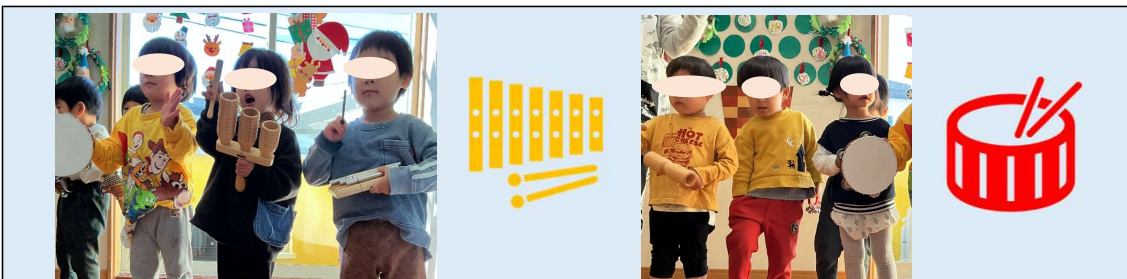
<活動の内容>

- ①楽器の説明をし、楽器(タンバリン・カスタネット・鈴)を数個子どもたちの前に置き自らに手に取れるように環境を整える。
- ②身近に知っている曲をタブレットで流しスピーカーから音を出すと音楽に合わせて楽器を鳴らすことを楽しむようになってきた。
- ③クリスマス会では自ら楽器を鳴らし、曲に合わせて音を楽しむ姿が見られた。
- ④2歳児は音を聴き何かをイメージできるような声かけをする。楽器遊びを通して自分で音を出すことに興味を持てるようにし楽器作りを行う。音を出す素材の中身は自由に選べることで音に違いがないか発見できるようになってきた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ①初めて見る楽器もあったため、すぐに触りたがる様子が見られた。こちらの説明を「それは何?」「やりたい〜!」と保育士に声をかける姿が見られた。
- ②それぞれの楽器の遊び方を伝えると緊張して楽器に触ったり、保育者の真似をして音を鳴らし楽しむ姿が見られた。保育者がタイミングよく楽器を振ったりする姿を見せながら子どもの前でやっていたので子どもも同じタイミングで楽器を鳴らす姿が見られた。保育士に「見てて!」「他のも使ってみたい」と言いながら夢中で楽器を鳴らす姿が見られた。楽器の貸し借りも保育士が仲立ちすることで子どもたち同士で上手に行うことができた。
- ・子どもの言葉はその都度メモして記録する。
- ・子どもの表情、ジェスチャー等はタブレットで写真・映像として記録する。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもの写真・映像・メモ等を見ながら振り返りを行い、全職員に研究活動の内容を共有する。
- ・保護者にお迎えの際写真を見せながら共有すると家庭ではできない経験と喜ぶ声が聞かれた。
- クリスマス会で活動した次の日に振り返りを行う。各々好きな楽器を鳴らして楽しむ姿が見られた。始めて見る楽器が多かったため、丁寧に楽器の説明を行ったことが良かったのか子ども自身も大切に楽器を扱おうとする姿が見られた。それぞれの楽器に対する力加減を伝えることが難しく感じたため数回活動に楽器遊びを取り入れ、触る経験を今後増やしていく。今回使用しなかった楽器を取り入れ、様々な音の種類があることに気づき継続的に楽しめるよう計画する。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	喜多見こどもの家
施設所在地	世田谷区喜多見3-14-6
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音(音を体感する)

<テーマの設定理由> ※①②両方について記載

①テーマの設定に活かした園の環境や強み

小規模保育環境の中で「体操やリズム遊び」が好きなこどもが自分の好きな「音」を見つけ体感することをテーマ考えた。玩具から楽器への興味の広がり、遊びの中で身体を使い音を体感し表現できるよう準備をし、更に探求していく。

②設定したテーマに子供の興味関心があると判断した理由

リズムに合わせてたり歌や音が好きで普段から楽しんでいる様子があるため。

2. 活動スケジュール

・1歳児6名、2歳児8名参加

・9月～2月まで月3回

・計画に入れていない日もこどもの様子によっては活動していく。月に3回活動し、午前の活動や午後に活動していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・音楽パッド、リバーランドスケープ、iPad

他の事に興味がむかないよう音楽パッドのみ配置し集中できる環境を作る。一人ひとりゆっくりと楽しめるよう見ている児と遊ぶ児と数人ずつ分けて活動する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

興味を深めていけるよう、音楽パッドを自由遊びの時に自然な環境設定をする。

・1歳児クラスはミュージックパッド(踏むと音が出る玩具)と音の出る絵本や音の出る玩具等感触を楽しめる玩具を用意する。

・1歳児は自由に音の出る玩具で遊び音を体感し興味を示す

・2歳児クラスはミュージックパッドとリバーランドスケープ(感覚が楽しめる平均台)と組み合わせた環境設定にてリズムに合わせてダンスを踊っている姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自由遊びの環境でミュージックパッド、音の鳴る絵本、リバーランドスケープ等の楽器や感触遊びができる玩具を置き、保育者が遊びながら見本を見せる。3~4人ずつ興味を持った児から自由に遊ぶ。パッドを独占したくて持って移動しようとする児には、順番で遊ぶように促しながら、ミュージックパッドを下に置くように伝える。

パッドの上でジャンプをするといろんな音が鳴ることに気づき、音が鳴るたびに笑ったり高い声を出したり「見て見て!」と嬉しそうに保育者に伝えていた。

(1歳児)ミュージックパッドは初めは警戒したり、上に乗りたがらない児が数人いたが、保育者が遊んで見せることで興味を持ったり、先に興味を示した児を見て友達と一緒に音を出して楽しむ姿が見られた。

(2歳児)どのように遊ぶものなのかわからない様子が見られたが、保育者が上に乗ったり手で押して音を出して見本をみせるとすぐに真似をして音が鳴ることを楽しむ様子がみられた。初めはパッドをバラバラに並べていたが、一人の児が二つのパッドを並べるとそれに習うかのように横に数個並べていきパッドの上をジャンプして順番に鳴らす等、次々と探求を深める姿が見られた。更なる感覚と音の広がりを楽しめるよう、リバーランドスケープを準備し組み合わせ、リズムよく踏んで楽しめるように設置した。

- ・子どもの言葉はその都度メモして記録する。
- ・子どもの表情、ジェスチャー等はタブレットで写真・映像として記録する。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもの写真・映像・メモ等を見ながら振り返りを行い、全職員に研究活動の内容を共有する。
- ・保護者へはお迎えの際にiPadで写真を見せたり話をしながら活動内容を共有する。全身を使って遊べる玩具の珍しさに驚き、良い経験ができていと喜んでいた。

活動の次の日に振り返りを行う。全身で音を楽しめ、簡単に音が出せる玩具を準備したことで子どもたちも取り組みやすく、興味を持ちやすく活動に参加できていた。初めは1つのパッドでのジャンプを楽しんでいたが、他児の使っているパッドの音に興味を持ち順番で使う楽しさに気づき意欲的取り組み姿が見られた。保育者が感覚遊びが出来、遊びに広がりができるようリバーランドスケープを出したことで音が鳴る所と鳴らない所の違いを楽しんでいる姿が見られた。今後は全身で楽しめる玩具を更に組み合わせ、様々な動きや体勢を楽しみながら心身ともに探求できるよう準備していく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	喜多見こどもの家
施設所在地	世田谷区喜多見3-14-6
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光（光って何だろう）

<テーマの設定理由> ※①②両方について記載

①テーマの設定に活かした園の環境や強み

昨年度も「光」をテーマにし、部屋に差し込む光やブラックパネルシアターを見て、光について興味を示していた姿から、光の反射や明るさ・色をライトテーブルやライトOHPを使った活動を行った時に、どのような事に気づいていくのか探究したいと考えた。

②設定したテーマに子供の興味関心があると判断した理由

普段からキラキラマグネットで遊び、窓から入ってくる光や窓飾りの光を見たり楽しむ姿が見られたため。

2. 活動スケジュール

- ・ 1歳児6名参加、1台のライトテーブルに3名。
- ・ 9月～翌年1月 月に3回活動
- ・ ライトテーブルとキラキラマグネット、マグフォーマー、キラキラボックスを使い、自然の光とライトテーブルの光や色で遊んだり、屈折や色の重なりを探究する。
- ・ 計画に入れていない日もこどもの様子によっては自由時間活動の際に遊ぶ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・ 1歳児の活動部屋。
- ・ キラキラマグネット、マグフォーマー、ライトテーブル、キラキラボックス（手作り）
- ・ 活動部屋を薄暗くし静かな環境を準備

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

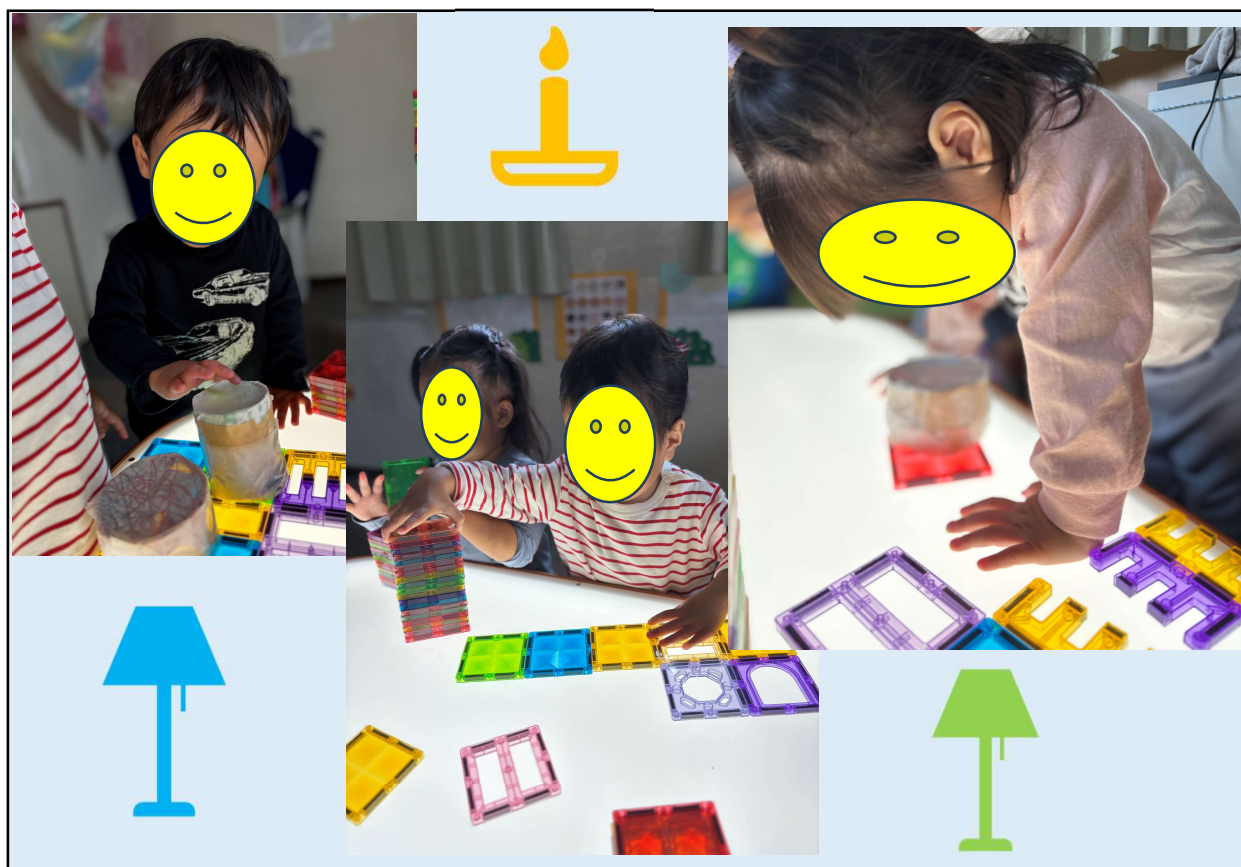
1歳児活動部屋にライトテーブルのみを準備し、ライトテーブルに慣れるようにした。ライトを付け、自分の手や顔を近づけてみる。「初めて見るテーブルでどうして光がつくのか不思議そうにしていた」様々な形のキラキラマグネットやマグフォーマーや自由に組み合わせたり形を作れるようにする。後半は手づくりのキラキラボックス大小を組み合わせられるよう環境設定、子どもたちは遊びの広がり自ら光活動に興味を示すようになる、素材を光に当てるだけでなく、破ったり、折ったり、丸めたりして、その形が光を通してどう映るのかなどを楽しんでいた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

目の前のライトテーブルにライトを付けるとパッと子どもたちの目が輝き、次々とキラキラマグネットをテーブルに並べ出し楽しんでいた。初めは横並びにマグネットを並べていたが、他児が上方向に立体的に組み合わせるのを見て同じように組立てたり「きれい!」「あか」と光るマグネットの色を嬉しそうに保育者に伝えていた。後半はキラキラボックスを出し、保育者が組み合わせ方を見せ、ヒントを出すことで真似する児もいた。キラキラボックスをカーテンの隙間からの光に当ててみたり、マグネットを上手く組み合わせながら見えた色や自然光とライトの光の違い、屈折を探求する児や友達が作ったものを一緒にのぞき込み共感する姿も見られた。

- ・子どもの言葉はその都度メモして記録する。
- ・子どもの表情、ジェスチャー等はタブレットで写真・映像として記録する。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもの写真・映像・メモ等を見ながら振り返りを行い、全職員に研究活動の内容を共有する。
- ・保護者へはお迎えの際にiPadで写真を見せながら活動の共有を行う。保護者の方から実際に見せて欲しいと言う声もあり、実物を見て頂きながら共有もできた。

ライトテーブルをつけると子どもたちが次々とマグネットを並べ、光の色の違いに夢中になる姿はどのお子さんにも見られる。色の気づきや組み合わせ方などお子さんによって全く違うため、関わっている相手もその不思議さに驚き、感動しました作ってみたいという気持ちの連鎖を何度もみることができた。今後は身近な自然物を取り入れたり、場所の変化による光の違いの探求を深めたりと遊びの広がりを継続していきたいと思う。